

在宅医療における ICT 活用の取り組み紹介

鳥谷彰^{†1}

キーワード：在宅医療，電子カルテ，センシング，モニタリング，CPS、サービス制御

Introduction of ICT utilization in Home Healthcare

AKIRA KARASUDANI^{†1}

概要

医療分野では、高齢化に伴う病床数の不足解消や通院の難しい患者へ対応するために、患者の自宅で診療，看護，介護のケアを行う在宅医療・介護への注目が高まっている。在宅医療では患者に加えて、医師や看護師，介護士など様々な関係者が患者のケアに関する情報(以下、ケア情報)を共有して、質の高いケアを提供することが求められている。

患者のケア情報の収集や分析，保管，共有を実現するために，ICT(Information and Cmmunication Technology)の活用に対する期待は高い。

本発表では，在宅医療の現場へ実際に ICT を適用した事例[1][2]を紹介し，そのベースとなる技術について説明するとともに，サービスの提供価値や課題などについて議論する。一つ目の事例は，在宅医療の医療関係者が患者のケア情報へ安全かつ効率的にアクセス・共有することを可能とする取り組みである。この取り組みにより，これまで以上に医療関係者間で頻繁に患者の最新のケア情報を共有する機会が高まる効果を確認した。二つ目の事例は，在宅医療における患者の日常生活の状態を様々なセンサーでモニタリングして，病院検査では見つけ難い日常生活中に現れる症状を捉える取り組みである。この取り組みにより，自宅に戻った患者が移動に苦勞している様子や異常歩行などを捉えられ，きめ細かな医療の実現を支援できる見込みを得た。

これらの取り組みを通して得られた，在宅医療での ICT 活用の可能性とともに，直面した難しさについて発表し，議論する。

参考文献

- [1] “在宅医療業務を革新、モバイルアプリケーション制御技術を開発・実証”。<https://pr.fujitsu.com/jp/news/2017/01/30.html>.
- [2] “スマートハウスの様々なセンサーで患者の隠れた運動機能異常を早期発見する技術を開発”。<https://pr.fujitsu.com/jp/news/2015/03/10-1.html>.

^{†1} 株式会社富士通研究所
FUJITSU LABORATORIES LTD.